



BCG 接種説明書



BCGは、結核菌に感染することによって起こる結核（主に肺に炎症を起こす感染症）の発病を抑え、重症化を防ぐための予防接種です。日本における結核の患者さんは減少してきましたが、今も新たに年間16,000人を超える人が結核になっています。

結核に対する免疫は、おなかの中にいる間にお母さんからもらうことができないので、生まれたばかりの赤ちゃんがかかる心配もあります。乳幼児は結核に対する抵抗力が弱いので、全身性の結核症にかかったり、結核性髄膜炎になることもあり、重い後遺症を残す可能性があります。

1. 接種方法について

BCGは、牛型結核菌を弱毒化して作られたワクチンです。BCGの接種方法は、管針によるスタンプ方式で上腕の2か所に押しつけて接種します。接種後は直射日光を避けて、自然に乾燥させてください。10分程度で乾きます。

| 対象年齢・接種間隔 | 接種回数 |
|--|------|
| 生後12か月未満の間に1回接種を受ける。（標準的接種期間：生後5か月以上生後8か月未満） | 1回 |

2. 接種後の経過と副反応

接種後の過ごし方について詳しくは裏面をご覧ください。接種後10日頃に接種部位に赤いポツポツができたり、一部に小さなうみができることがあります。この反応は接種後4週目頃に最も強くなりますが、その後はかさぶたがむけて接種後3か月までには治り、小さなきずあとが残るだけになります。これは異常な反応ではなく、BCG接種により免疫がついた証拠です。その間は普段どおりに清潔に保ってください。ただし、接種後3か月を過ぎても接種のあとがジクジクしている場合は医師にご相談ください。

副反応としては、まれに接種した側のわきの下のリンパ節が腫れることがあります。通常はそのままで腫れがひいていきますが、ただれたり、大きく腫れたり、化膿がいつまでも治らない場合は医師にご相談ください。

また、結核感染後に接種した場合、接種後2～4日頃に接種局所に発赤、腫れ、化膿をきたし、通常2週間から4週間後に治るといふ一連の反応が起こることがあります（コッホ現象）。コッホ現象がみられた場合は、医師にご相談ください。

3. 予防接種健康被害救済制度について

万が一、BCG接種による重篤な健康被害が発生し、被害者からの健康被害救済に関する請求について、厚生労働省が因果関係を認定した場合、国の定める医療費、医療手当等の給付を受けることができます。

- 下痢はしていないかな？
- 熱は？
- ひどい湿疹はないかな？
- せきや鼻みずは？
- いつもと違うところはないかな？
- 機嫌は良いかな？

◎ 予防接種に関するお問い合わせは・・・

宇都宮市保健所 保健予防課
028(626)1114

裏面はお読みになりましたか？
不明な点は接種前に医師に
ご確認、ご相談ください。



予防接種を受ける前にお読みください



予防接種は、感染症にかかることを防いだり、かかった時の症状を軽減したり、病気がまん延することを防ぐために行なわれます。

赤ちゃんがおなかの中にいる間におかあさんからもらった免疫力（病気から体を守る力）は、生後数か月から1年くらいで自然に失われていきます。そのため、その後は子ども自身で免疫をつくって病気を予防する必要があります。その助けとなるのが予防接種です。

予防接種を受ける前には、予防接種の特徴や有効性、副反応などをきちんと理解することが大切です。予診票を記入する前に、この説明書をお読みの上、不明な点などは接種前に医師に相談しましょう。

★ 予防接種のきほん ★

1. 予防接種を受けることができないのはどんなとき？

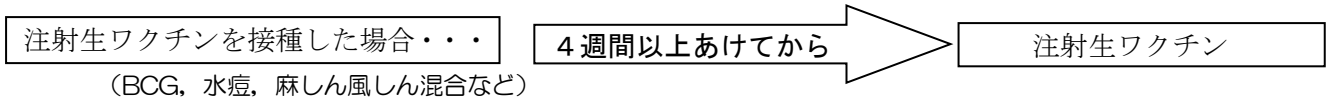
予防接種は、体調の良いときに受けるのが原則です。下記のいずれかにあてはまる場合は接種できません。

- 1) 明らかに熱がある（一般的には37.5℃以上）
- 2) ひどい下痢をしている
- 3) 重い急性の病気にかかっている
- 4) その日に受けるワクチン、またはワクチンに含まれている成分でアナフィラキシーショックを起こしたことがある（アナフィラキシーショックとは接種後30分以内に蕁麻疹などの皮膚症状や、腹痛や嘔吐などの消化器症状、そして息苦しさなどの呼吸器症状を呈します。）
- 5) ロタウイルス接種の場合、腸重積症にかかったことがある。
- 6) ロタウイルス接種の場合、腸重積症の発症を高める可能性のある先天性の消化管障害があり、治療していない。
- 7) ロタウイルス接種の場合、重症複合型免疫不全（SCID）を有する
- 8) BCG接種の場合、予防接種や外傷などによるケロイドが認められる
- 9) BCG接種の場合、結核にかかったことがある
- 10) 水痘予防接種の場合、水痘にかかったことがある。
 - 1 1) 麻疹（はしか）、風しん、おたふくかぜ、水痘（みずぼうそう）、などの感染症にかかり治ってから4週間以上経っていない場合や突発性発疹、手足口病などにかかり治ってから2週間以上経っていない場合
 - 1 2) 子宮頸がん予防接種対象者の女性で、妊娠している又はその可能性がある場合
 - 1 3) その他、医師の判断で不相当と判断された場合

2. 予防接種の間隔について

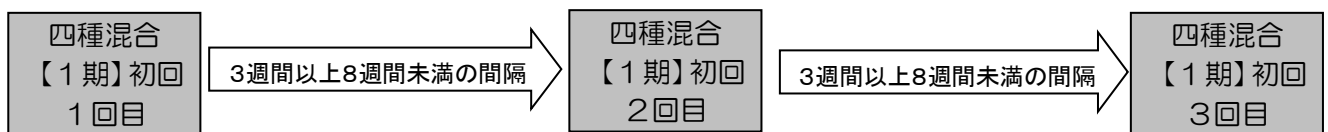
予防接種を受けてから次の予防接種を受けるまでに一定の期間が必要になります。接種したワクチンの種類によってその間隔が異なりますのでご注意ください。

1) 異なる種類のワクチンを接種する場合



2) 同じワクチンを複数回接種する場合

＜例＞四種混合ワクチン

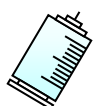


※ B型肝炎、ヒブ、小児用肺炎球菌、四種混合、水痘、日本脳炎などは同じ種類のワクチンを複数回接種します。確実な免疫をつけるために、決められた接種間隔で受けましょう。

3. 予防接種後の過ごし方

接種後に副反応がでることがありますので、下記の点に気をつけましょう。

- 1) 接種後30分くらいは接種した医療機関で子どもの様子を観察するか、かかりつけの医師とすぐに連絡がとれるようにしておきましょう。急な副反応はこの間に起こることがあります。
- 2) 接種した日は、普段どおりの生活でかまいません。ただし、はげしい運動は避けましょう。
- 3) 接種した日の入浴はかまいませんが、接種部位を強くこするのは避けましょう。
- 4) 生ワクチン（BCG、水痘、麻疹風しん混合など）は接種後4週間、不活化ワクチン（B型肝炎、ヒブ、小児用肺炎球菌、四種混合、二種混合、日本脳炎など）は接種後1週間、副反応の出現に注意しましょう。
- 5) 予防接種後に接種部位のひどい腫れ、高熱や麻痺などの重篤な症状が現れた場合、医師の診察を受けた後に保健所保健予防課（Tel626-1114）までご連絡ください。



本日受ける予防接種の特徴や副反応などは、表面に記載されています。接種を受ける前に必ずお読みください。

